



# プロジェクトニュース

## シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「中間評価特集号」

2012年7月18日 (Vol.28)

### 目次

はじめに ー笑顔は絆を深めるー

#### 1. 調査団から見たプロジェクト・シエラレオネ

##### 1.1 平和構築の優等生

##### 1.2 プロジェクトの持続性とは、カウンターパートの「やる気」

##### 1.3 JICA 専門家とシエラレオネ国行政官の熱い思いを感じることができた1週間

#### 2. 専門家的一天 ー発電機に始まり、発電機に終わるー

#### 3. 大好評のコラム

ごっつあんです、シエラレオネ！第23話 ーベトナム フォーの替え玉ができる！？ー

\*プロジェクトHPにもアクセスください

い：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>



シエラレオネ



プロジェクト対象県



## はじめに ー笑顔は絆を深めるー

今回の CDCD プロジェクトニュースは「中間評価特集号」として、JICA 本部から派遣された中間評価調査団の皆さんに原稿を執筆いただきました。これまでのプロジェクトニュースと一味違う、調査団員のフレッシュな視点でとらえた「CDCD プロジェクトとシエラレオネ」をお伝えできればと思います。

2009 年 11 月に CDCD プロジェクトを開始して以来、早 2 年半以上が経ちました。プロジェクト開始当初は、地方自治地域開発省や県議会の関係者とプロジェクトの実施計画を協議しながら、地方と首都の事務所の立ち上げ、地方の専門家宿舎整備など、首都と地方を行き来する忙しい日々が続きました。

専門家チームのメンバーも段階的にシエラレオネに着任し、県議会や本省のカウンターパートを中心に人間関係を構築してきました。これまでの道のりでは、いろいろなことがありました。カウンターパートから逆風が吹いて、物事が進まないときもあれば、非常に好意的な対応が続き、想像以上に物事が進むこともありました。これまでのやりとりすべてが、今日に至る必要なプロセスだったのだと思います。

そして今、中間評価という節目の機会を迎えました。この機会に、これまでの成果や今後の課題を整理し、今後のプロジェクト活動に向けた提言を受けます。

JICA 本部から派遣された中間評価調査団の皆さんは、本省から県議会、村の有力者など幅広いインタビュー、現地視察など凝縮した日程を精力的にこなしました。

今回の中間評価の結果を受けて、さあ、心新たにまた前進です。カウンターパートとの信頼関係には日々の積み重ねが、欠かせません。

プロジェクト専門家一同、笑顔で周囲の人たちとの絆を深め、心に余裕を持って、カウンターパートに接していきたいと思います。

(平林リーダー)



現地調査の様子 (調査団は写真後方)



合同調整会議 ー地方自治地域開発省にてー



中間評価調査団チームとプロジェクト専門家

\*\*\*\*\*

## 1. 中間評価調査団から見たプロジェクト・シエラレオネ

### 1.1 平和構築の優等生

今回、CDCD プロジェクトの中間評価で初めてシエラレオネにお邪魔しましたが、良い意味で、非常に期待を裏切られました。行く前は「生々しい内戦の爪痕」、「平均寿命 30 歳」、「紛争ダイヤモンド」等々、ネガティブなイメージに事欠きませんでした。今もなおインフラや人材の面で課題山積でしょうが、シエラは着実に和平に向かって進んでいるように思えました。

パリ発コナクリ経由のエアフランスで夕暮れのシエラレオネ国際空港に到着後、降りしきる霧雨の中、フリータウン行きのボートを待つ間は、どんな出張になるのやらと、期待と不安に心が高鳴りました。しかし、シエラレオネ滞在中にいただいた食事は押しなべておいしいし、高台から望むフリータウンの景色も南仏のようでした（若干、誇張）。

紳士的な大臣や副大臣、次官。やる気のあるポートロコやカンビア県議会のカウンターパート。子供たちの笑顔などなど、色々なことが強く印象に残っています。

平和に一番大切なのは国のリーダーたちの強いコミットメントだと私は思います。自分の利益を優先して、然るべきタイミングで、然るべき判断を誤ると、一見安定した国でもたやすく紛争の再発を招きます。シエラレオネは平和構築の優等生と呼ばれていますし、私も同じ印象を持ちました。今年の 11 月に 3 回目の選挙を迎えますが、着実に和平に向かって歩んで欲しいと思います。

専門家チームの皆様、上手く行くことばかりではないと思いますが、引き続き笑顔を絶やさず頑張ってください。皆様が泰然と構えることで、カウンターパートとの信頼関係が築けると思います。



現場視察で子供たちと。後方右が阿部団長。



地方自治地域開発省での合同調整会議。



県議会での中間評価報告会議。

阿部団長（JICA 本部 経済基盤開発部）

\*\*\*\*\*



## 1.2 プロジェクトの持続性とは・・・カウンターパートのやる気

中間評価の実施にあたり、地方自治地域開発省の副大臣、県議会関係者より、「今後、県・村落開発モデルの全国への普及を行っていきます。その役割は我々自身にあります。」との心強いメッセージが何度も寄せられました。

そのようなメッセージを受け取る中で、改めて、カウンターパートがやる気を出すために、このプロジェクトではどのような仕掛けづくりを行っているのか考えてみました。

- ① CDCD プロジェクトでは、パイロットプロジェクトの実施を通じて得られた県・村落開発モデルの検証結果を踏まえて、地方自治法の改訂や県村落開発ポリシーの策定をしています。カウンターパートによる現場での活動が法律やポリシーの改訂・策定に実際につながっていることをカウンターパートは誇りに思っているようです。
- ② 県・村落開発フォーラム全国大会や他県へのスタディーツアーを通じて、他県に先駆けて県・村落開発モデルを策定している CDCD プロジェクトの取組を紹介することに誇りに思っているようです。
- ③ 県議会関係者がプロジェクトのモニタリングをする中で、プロジェクトの裨益者である住民に耳を傾ける機会を積極的に設けています。住民のプロジェクトに対する感謝の声を直接聞き、県議会自身が実施するプロジェクトを誇りに思っているようです。
- ④ 「やってみせる」から「カウンターパート自身が主体的に実施する」、あるいは、「カウンターパートのいいところをどんどん伸ばしていく」というスタンスで、日々専門家はカウンターパートに接しています。



現地視察する早瀬団員（写真中央）



聞き取り調査の様子



地方自治地域開発省にて調査報告する早瀬団員

考え始めると、CDCD プロジェクトの中では、カウンターパートのやる気を引き出す多くの仕掛けがあることに改めて気づきました。

中間評価では、プロジェクトの持続性について、政策、予算、実施体制等の観点から評価を行いました。が、カウンターパートのプロジェクトへのやる気が何よりも重要なかもしれません。

今回の中間評価では、プロジェクトの「持続性」について、政策、予算、実施体制の観点から評価を行いました。

これらの点に加えて、カウンターパートのプロジェクトへの高いコミットメント、言い換えれば、彼らの「プロジェクトに対するやる気」が、何よりもこのプロジェクトの持続性を高めているのではないかと調査の節々で思った次第です。

早瀬団員 (JICA 本部 経済基盤開発部)



\*\*\*\*\*

### 1.3 JICA 専門家とシエラレオネ国行政官の熱い思いを感じることができた1週間

JICA 財務部に所属している私は、プロジェクトの現場に出向く機会ほとんどありません。過酷な環境の中で働く JICA 専門家が、日々どのような思いで尽力されているか、援助を受ける被援助国はどのような姿勢で彼らと向き合っているか、を直接感じてみたいと強く思っていたところ、本プロジェクトの中間評価調査団に参団する貴重な機会を頂戴することができました。

実際にシエラレオネ国を訪れてみると、道路はガタガタ、電気や水が十分に機能しないホテルに宿泊するなど、首都でも基礎的なインフラがまだまだ不足していました。

このような状況ですから、専門家の生活環境も決して十分なものとは言えず、女性含む複数の JICA 専門家が共同で暮らさざるを得ないものとなっていました。



現地視察にて (後方中央が室井団員)

ですが、職場でも宿舎でも常に笑い声と笑顔が絶えない専門家のお姿を拝見すると、なによりこのプロジェクトは専門家の多大な忍耐と努力の積み重ねから始まっていることを感じることができます。

一方で、実務を担っているシエラレオネ国行政官は、年齢が20～30代の若者が多く、県議会の席上で必死にメモをとったり積極的に意見を述べたり、現場に出向けば懇切丁寧に調査団に説明して下さる姿が印象的でした。後に専門家から伺った話によると、プロジェクト開始当初は、このような姿勢は全く見られなかったとのことで、彼らの意識が大きく変わってきているという文面に表れない成果の一つとなっているようです。



市場で野菜や果物を売る人々



わずか1週間でありましたが、JICA 専門家とシエラレオネ国行政官の双方から熱い思いを強く感じることができ、私も一行政官として初心を改めて思い返す機会となりました。

中間評価は総じて良好な結果となり、残りのプロジェクト期間において更なる発展が期待されます。その評価の詳細は JICA の HP 等により公表されることとなりますが、文面では伝えきれない専門家の熱い思いやシエラレオネ国の状況を、本ニュースにより少しでも読者の皆様に届いて欲しいと思っている次第です。

今後のフィールドオフィスや専門家の皆様のご健康、プロジェクトの成功及びシエラレオネ国の発展を心より祈念していると共に、本ニュースの読者の皆様には、彼らへの更なる応援をお願いしたいと存じます。



現地調査する室井団員（写真中央）

室井団員（JICA 本部 財務部（会計検査院より出向中））

\*\*\*\*\*

## 2. 専門家的一天 — 発電機に始まり発電機に終わる —

7月X日金曜の夜。フリータウン出張からポートロコ県宿舎に戻る。宿舎発電機を作動させるが全く動かず。急遽、予備の発電機を作動させる。発電機業者（首都フリータウン在住）に緊急の修理を要請した。

電気がない町に住む私たち専門家4名にとって、発電機（1日3～4時間作動）とソーラー発電機は生活基盤上極めて重要な機材である。毎月発電機の点検を受けているものの、時々故障するため、ソーラー発電は生活に欠かせない重要な電源となっている。



プロジェクト宿舎。屋根にはソーラーパネルを設置。

翌日、1台の発電機が煙を吹いて停止。発電機整備業者に改めて緊急修理を要請。バックアップ用のもう一台の発電機が故障しないことを祈るのみ。

7月X日、午前8時20分、プロジェクト事務所出勤。事務所発電機を作動。車両と発電機用燃料の調達。たまらなくゆったりとした給油作業に立会い、後悔する。その後、銀行預金残高の確認。隣の県の銀行へは電話確認。極めて丁寧な対応且つ正確な数字をもらう。地元の銀行には直接出向いたものの、対応も悪くシステム上正確な数字はもらえず。

午後。本日と明日のモデルワード建設業者への出来高支払いの準備開始。  
午後、事務所にてモデルワード業者へ支払う。発電機整備業者の説明の後、  
修理費を支払う。

午後 7 時 30 分過ぎ、県議会戸締り担当者呼んで事務所の戸締り後、  
事務所発電機のエンジンを止め帰宅。

午後 8 時過ぎ、同宿舎の専門家の皆さんと夕食。夕食後に家族へ国際電話。  
電話の後、つい寝込んでしまう。

午後 11 時頃、夢心地の中で発電機のエンジン音で目覚める。あわてて宿舎発電機のエンジンを止める。  
今日も発電機に始まり発電機で終わる一日だったようです。



プロジェクト事務所用の発電機小屋。

田中専門家（業務調整）

\*\*\*\*\*

### 3. コラム：ごつつあんです！シエラレオネ 第23話 -ベトナム フォーの替え玉ができる！？-

今回は、中間評価調査団の  
皆さんと最後に食事をしたお  
店「Indochin」を紹介します。  
このお店は自称ベトナム、中  
華、タイ料理屋さんです。守  
備範囲が広いお店です。



生春巻きもどうぞ。

店長はベトナム人のフィリップさん。彼はシエラレオネに来て  
から 1 年以上経ちます。かつてはベトナムで日本語の勉強をして  
いたとあって、日本人に会うと、「いらっしゃいませ」「どうも  
ありがとうございます」と日本語で挨拶してくれます。



ベトナムといえば、フォー。

町に買出しに来ているフィリップさんと出会うこと  
がたびたびありました。ある日、彼は頭に包帯、顔に  
は沢山のばんそうこうをつけていました。聞くと、バ  
イクタクシーに乗っていたときに転倒して怪我をした  
そうです。怪我にもめげず、買い出しに行かっていた  
フィリップさん。

そんなフィリップさんが調達してくれた海の幸や食  
材は新鮮です。

このお店のお奨めは、海の幸をたっぷり使った料理  
とベトナムのフォー。本場よりは随分と値段も高く、  
メニューも限られています、シエラレオネで食べられるだけでも感謝感激です。



肉厚のイカをふんだんに使った炒め物。



フォーのスー  
プはさっぱ  
りしておい  
しいですね。大  
人数で麺や具  
を取り分けて  
いると、スー  
プが残ってし  
まいます。



タイ（シエラレオネ）風ライスヌードル（写真右）、バラクーダのしょうが風味あんかけ（写真右）

そこで「だ  
めもと」で、  
店員のマリアト  
ュさんに「替え  
玉」をお願い  
しました。もち  
ろん、替え玉  
のシステムは、  
このお店に  
ありませんから、  
ひらしゅらん  
のお願いです。

すると、彼女はスー  
プの入った器ごと  
キッチンに持ち帰  
り、しばらくした  
後、麺の入った  
暖かいフォーを  
持ってきてくれ  
ました。素晴  
らしい！スープ  
も温めてくれる  
なんて、ありが  
たい。

ちなみに会計を見たら、この「替え玉」は請求されていません。お店の人に聞くと「サービスですよ」と。いやー、悪いことしたかな、と思い、翌日のお昼も取材をかねて、このお店にやってきました。

このお店、デザートには、焼きプリンもありますよ。ご馳走様でした。

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★★。フォーの替え玉が出来るとは！間違いなく5★です。

\*\*\*\*\*



店内は落ち着いた雰囲気。

次号へ続く

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、田中専門家（業務調整）、宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理）、反町専門家（研修計画）、池上専門家（村落開発）：2012年7月実績

